

# 見附市教育センターだより



〒954-0052

見附市学校町2-7-9

電話/Fax 0258-62-2343

E-mail [mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp](mailto:mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp)

令和元年6月28日 NO.3

(写真は6月3日撮影)

今町小たこ揚げ：刈谷田川土手



## 「追求」に向けた自然な仕掛けを

学校教育課課長補佐 菫澤毅夫

4月14日(日),きれいなまちをつくる会主催の全市クリーン作戦に参加しました。本町在住の私は,中央公民館に集合し,バスで美里町近くのダンプ道路交差点から,中学生になったばかりの我が子と一緒に,空き缶やたばこの吸い殻,劣化したビニール袋などを拾いながら,春のひと時を楽しみました。

この日を境に,私は“歩く”ことに楽しさを感じるようになり,自転車通勤から,徒歩通勤に切り替えました。始めると,「運動として適切な歩数はどれくらい?」と思い,インターネットで調べて,目標を立てるようになりました。

毎日歩いていると,自転車やランニングでは気にも留めなかった家々の庭先の景色が目に入るようになりました。「あの家はいろんな色のバラが咲いていてすごいなあ。どう育てるのかな。」「どうしてこの家のつつじはこんなに花が咲いているのに,うちのつつじは花が咲かないのだろう…。」

これまで書店へ出かけても全く関心の無かった「庭」関連の雑誌はどこかと探しては手に取り,この疑問を解決したいと考えるようになりました。

クリーン作戦後,改めて『広報見附4月号』に目を通して見ました。きれいなまちをつくる会会長さんの「ごみを拾う人はごみを捨てません」というコメントが掲載されていました。見附市が目指す「ふるさと見附を愛する子ども」「世に役立つことを喜びとする子ども」と重なるコメントでした。

ただ,私は他に載っていた「いいウォーキングにもなります」というコピーに,目が留まりました。

見附市はスマートウエルネスシティを目指したまちづくりをしています。このクリーン作戦に参加した私も,なるほどウォーキングはいいものだと感じ,知らず知らずにまちづくりの施策に共感をしていただけです。教師の仕掛けによって,追求をはじめると子どもの姿と自分の行動が重なりました。

後1か月で夏休みです。各教科の残りの単元をふかんして,追求に向けた自然な仕掛けをプランしてみたいかがでしよう。子どもが生き生きと仕掛けに乗った時こそ,主体的に追求し,人・もの・こととの対話を求め深い学びにつながるのではないのでしょうか。

## 巻頭写真に寄せて 一 今町・中之島大凧合戦 一

◇今町・中之島大凧合戦は、毎年6月の第1土曜日～月曜日の3日間、刈谷田川の堤防で今町地区と中之島地区との間で行われます。今年は1日(土)～3日(月)で実施され、最終日の3日の「子どもの部」に、今町小学校の子どもたちが参加をすると聞き、見学に出かけました。これは刈谷田川を挟んで隣り合う今町小と中之島中央小が、凧揚げを通じて交流しようと毎年開いている「凧合戦交流会」です。今年は両校の5年生、119名が参加した交流会でした。この日は風がなく凧を揚げるのは大変でしたが、凧協会の皆さんの手助けがあり、自分たちの作った凧が大空高く揚がると、子どもたちは嬉しそうでした。(巻頭写真) この交流会の様子は、地元テレビのTeNYで夕方6時15分のニュースで放映をされましたので、見た人もいます。

◇「凧合戦交流会」という他校との交流を通じて、地元の伝統行事に触れる体験は「地域を知り、地域の良さを感じる事の出来る」とても良い学びだと思えます。これからも引き継がれていって欲しい伝統行事です。



＝ 大凧合戦は新潟県の『無形民俗文化財』です ＝

◇さて、この「大凧合戦」の起源を知っていますか？今から300年以上も前の江戸時代のこと、信濃(の長野県)の紙商人が、たまたま端午の節句に「今町」に立ち寄った際、刈谷田川の堤防で、大凧を作り、揚げたのが始まりと言われています。現在の大凧合戦の形態となったのは、江戸時代の天明3年(1783年)より、刈谷田川改修の堤防を踏み固めるため(地固めの一策)に行き来して以来、年中行事として今に至ると伝えられています。度重なる刈谷田川の氾濫が、地域の人々に大災害を引き起こしてきた歴史が、今町・中之島大凧合戦の根底にあるのです。

◇さて、同じように水害から地域を守るために、大凧合戦が行われてきたのが「白根大凧合戦」だと思えます。白根大凧合戦の由来は、江戸時代の中期、中ノ口川の堤防改修工事の完成祝いに、凧を揚げたところ、対岸に凧が落ち田畑を荒らしたことに腹を立て、荒らされた方が対抗して、凧を反対側にたたきつけたことが起源とされていますが…、中ノ口川の堤防の地固めだったに違いありません。昼24畳もある大凧を何十人もの大人が堤防を走って揚げ、凧を絡めて大綱を引き合うのです。凧合戦というより綱引きです。堤防の地固めに他なりません。大雨の時期を前にして、大きな川では堤防を踏み固め、河川の決壊を防いだのです。

◇凧揚げから話はずれませんが、江戸時代、江戸第一の桜の名所は、隅田川の堤防です。これも大勢の見物客によって堤防を踏み固めたのです。明治に入り、大河津分水など各地の河川の堤防改修工事が行われると、堤防に桜が植えられましたが、これも同じ考えからだと思えます。

◇凧の話題に戻ります。新潟県では「今町・中之島大凧合戦」「白根大凧合戦」に、もう一カ所、「三条大凧合戦」も有名です。三条の起源は江戸時代の始めの頃、三条に村上藩の陣屋が置かれ、陣屋(武士)の子どもが凧を揚げているのを鍛冶屋(町人)の子どもが見て、この子どもたちが姿を見せずに凧を高く操り、陣屋の子どもの凧を切り落としたりしたことが始まりとされています。これを見ていた大人が加勢し、やがて子どもよりも大人が争う凧合戦となり、端午の節句に庶民対武士で合戦することが公然となったのだそうです。ここは兩岸の堤防での合戦ではなく、小ぶりの六角凧で、絡めたり切り落としたりの揚げ師の技の勝負ですが…、多くの町内が参加をし、たくさんの凧が揚がり、大勢の見物客が堤防を行き来をします。やはり三条ももとは大雨前の地固めが大きな要因だろうと考えられます。大河は飲料水や農業用水として、また人や物資の運搬として等、重要なものですが、氾濫による被害は大変なものでした。ですから、毎年堤防の地固めのために「大凧合戦」は、大切な行事だったのです。

◇凧合戦を教材に、4年生社会科の「郷土の先人たちの苦労の様子」を学んでみてはいかがでしょうか。さらに、上記の3つの大凧合戦は、新潟県「無形民俗文化財」になっています。子どもたちに、夏休みの自由研究で「県や市の文化財」を調べさせてみるのも楽しいですよ。(こ)

## <4時から夢塾>—新学習指導要領に基づいた理科の授業づくり—

6月4日(火)に実施した「第三回：4時から夢塾」は、県立教育センターの小野 浩指導主事から表題のテーマで「理科授業の改善」について学びました。概略を紹介します。

### 1 変わらないもの

- (1) **子どもの科学**…それぞれの発達段階において、ある科学を持っていると考えられることである。→子どもの概念形成と同じ。
- (2) **資質・能力を育むために重視すべき学習過程**において  
→「見通し」をもつことと「振り返り」が大事。
- (3) **学校教育を通じて子どもたちに育てたい姿**…主体的に学びに向かい、多様な人々と協働して、問題を発見・解決し、新たな価値を創造していくこと。



### 2 変えなければいけないもの

- (1) **資質・能力の育成** 内容(コンテンツ)から資質・能力(コンピテシー)へ  
・カリキュラム・マネジメント…教師一人一人が考えて、学校全体で考えることが大事。
- (2) **主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善**  
・見通しをもち粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返り次につなげる「主体的な学び」を実現できているか。  
・自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。  
・思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。
- (3) **主体的・対話的で深い学びの実現には** →集団としての子どもたちの関係性が大事。  
・小学校：子どもの思考を丁寧に取り上げ、進めていくことを継続していく。  
・中学校：探求の過程を意識した授業づくりを一層進める。
- (4) **毎時間、子どもに思考をさせるために**  
・自分の考えを説明させる。(言語化) 一時間の中で、思考する場面をつくること。  
・しゃべるばかりでなくて、聞いて書く。→思考が生じる。  
・よいノートづくりをさせる。→思考が深まる。
- (5) **学習理論 <構成主義>** 子どもが自己の関心のある多様な情報を自己の判断によって取り入れ、そしゃくし、その結果、考え方を更新していく。

### 3 資質・能力を身に付けるには

- ・見通し(Anticipation) 行動(Action) 振り返り(Reflection) = AARを通じて学習される。
- ・振り返り 資質・能力が身に付いたかの自己評価をする。
- ・子どものつぶやき・考え・願いを逃がさない。子どもの状況を把握し、指導を図る。



- <参加者の声>・「主体的な学び・対話的な学び・深い学び」の具体的な視点を示して頂いた。新学習指導要領を意識しながら日々の授業に取り組んでいるので、自分自身の思考の整理に繋がった。
- ・対話的で深い学びとは、理科学習において、どういうことなのかをイメージすることができた。
  - ・実際の思考場面での子どもの思考を引き出す工夫のヒントが得られた。他教科でも活用できそう。
  - ・新学習指導要領や今日的な理科の考え方の動向と、日々の理科授業の接点を考える機会を得た。

## <4時から夢塾> —物語を深く読むおもしろさを教師も！—

第四回「4時から夢塾」は6月12日(水)、中越教育事務所の小池進輔指導主事から、物語文の読み取りを通して「国語授業の改善」を学びました。

本研修は、「物語を深く読み取る」ための国語授業を実現するには、まずは教師がそのおもしろさに十分にふれることの大切さを「モチモチの木」を教材にして、様々な角度から指導して頂きました。概略を紹介します。



### 1 指導の三つ場面と様々なポイント

- (1) モチベーション…読む動機付けを持たせるために、教材との出会わせ方を工夫すること
- (2) バリエーション…目的に応じた様々な形態を方法による音読をさせること
- (3) コンスタレーション…作品の解釈を深めるために全体をふかんしながら、各部分を意味付けたり、各部分相互の網の目・星座のようなつながり・関係を見い出させたりすること

### 2 モチベーション 教材文通読の動機付けを図ること

- ①題名著目方式 ②挿絵活用方式 ③作者情報接触方式 ④先行読書等

### 3 バリエーション 音読の形態や方法の工夫 ①すらすら型(マル読み・形式段落読み等)

- ②イメージ型(役割分担読み・対話読み等) ③論理型(ダウと読み・文図動作読み)



### 4 コンスタレーション 教師の解釈の押し付けはよくないが、教師の深い教材研究なしには児童生徒の深い学びはない—星座は星と星のつながりは見えないが人間が作ったもの—

### 5 モチモチの木の設定をとらえよう！ ・いつ？ ・どこで？ ・だれが？ ・豆太はどう変わったか？ ・豆太は臆病か？(同じ一人の人でも状況によって見せる姿が変わる)

- ・登場人物像を類比(共通点探し)と対比(違い探し)で見る —関係付けをすること—

### 6 まとめ 主題は作品から心に響いてくること

- ・人だけではなく、すべてのものを決めつけてはいけないよ。一人の人、一つのものでも条件によって姿や見え方は変わってくるよ。

### <参加者の声>

- ・教師と子どもで、解釈を話し合ったり見つけ合ったりすることは、面白いものだと改めて認識できた。
- ・子どもから思いを引き出すには教師が教材を読み込み、視点を与えられなければ！と痛感。
- ・『モチモチの木』に絞って教えて頂き、とても深く読むことができた。改めて「なるほど」と感じる事が多く、子どもたちにもこんな思いを感じてもらえるように授業をしたいです。
- ・3点で大変に参考になった。教材を読み込むことの大切さを学んだこと。指導の三つの場面の視点を教えてもらえたこと。目的に応じた読み方の演習ができたこと。

＝過日、小池進輔指導主事からお便りが届きました＝見附の先生方の熱心さに感激、感謝です。  
(中略)当日は欲を張り、子ども役をしてくださった先生方の素敵な考え方を受け止めず、反論・揺さぶりをしておりました、そして、最後は押し付けで申し訳ありませんでした…。



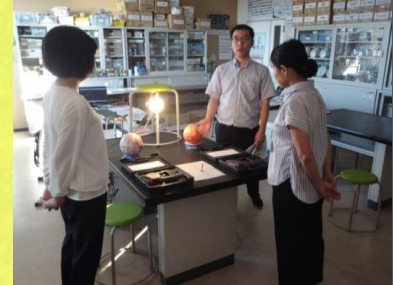
## <科学教育部>

## 6月の活動報告

### 単元別研修会

#### 小「天体を学ぶ」 6月13日(木)

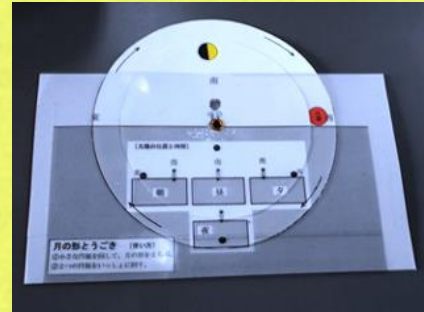
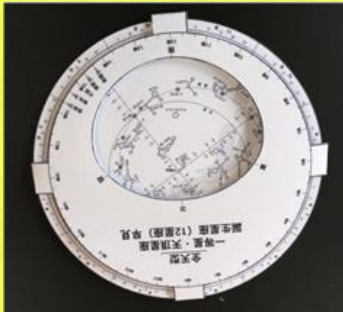
小学校での天体学習は、3年生～6年生まで発達段階を踏まえて、3年生では太陽の動き、4年生では星座や星・月の動き、6年生では月の満ち欠けと太陽の関係を学びます。中学校での天体学習になると、宇宙から見たふかんした考え方が求められます。天体学習に大切な「時間的・空間的な見方」を育てるのに有効な観察の仕方やモデルの活用、シミュレーション教材等を使って研修を行いました。



<星座早見盤>

<天体高度測定器>

<月の見え方学習盤>



資料は、市教委¥06\_理科センター¥00 研修資料公開で、紹介しています。学習教材として、児童が一人一人作成するにも最適です。ぜひご活用ください。

### 野外研修会

#### 「大平森林公園の植物」 6月11日(火)

植物観察会を大平森林公園を会場にして行いました。講師の上越教育大学 五百川 裕教授にお越しいただき、大平堤の周りを散策しながら樹木や道端の草花を観察しました。さまざまな植物の生きるための工夫や、子孫を残すために進化してきた作りなどを学び、充実した研修となりました。大平森林公園だけでなく、学校のまわりに何気なく生えている植物の面白さについても知ることができました。来年度も植物研修会を行う予定ですので、ぜひご参加ください。



↑  
ノアザミの花の蜜を吸って受粉に貢献す



カルガモにも会いました♪

## 要請訪問・ゲストティーチャー

### 5月30日（木） 今町小学校 科学クラブ

巨大シャボン玉づくりを行いました。まずは理科室の中でシャボン液を準備して、天気も良かったので屋外に出て巨大なシャボン玉づくりにチャレンジしました。どうやったら大きなシャボン玉ができるか試行錯誤しながら、楽しんで実験を行うことができました。



### 6月14日（金） 今町小学校 3学年PTA行事

今年度から理科の学習がスタートした小学校3年生のPTA親子体験活動で、科学体験を行っていただきました。デモンストレーションとして、スモークマシーンでけむりを発生させて大きな空気砲で打ち出しました。白いけむりが空気力で打ち出される様子に驚き、科学の面白さを感じていたようでした。



その後親子で一緒に行う科学体験としてペットボトルを使った簡単な空気砲づくりと、スライムづくりを行いました。

## 今後および7月の活動予定

### <単元別研修>

①小5 「魚のたんじょう」	6月27日（木） 15:45～16:45
②小6 「てこのしくみとはたらき」	7月11日（木） 15:45～16:45

### <要請研修>

名木野小学校 3年生PTA科学体験	6月29日（土） 9:00～11:00
-------------------	---------------------

### <土曜子ども科学教室>

「飛行の科学」	7月 6日（土） 10:00～11:30
---------	----------------------

### <わくわく体験塾>

「火山灰から宝石を見つけよう」	7月30日（火） 10:00～11:30
-----------------	----------------------



カンラン石

#### 【火山灰の中に宝石！？】

火山灰は火山の噴火とともに地上に降り注ぎます。灰色のやっかいな灰と思いがちですが、マグマの一部からできた火山灰には宝石の基となる鉱物が含まれています。マグマが地下で固まり、鉱物が集まってできた大きく輝いているものが宝石と呼ばれます。はるか大昔にできた地層にも火山灰からできたものもあり、そこから鉱物も採集できます。カンラン石は緑色をしているものですが、宝石「ペリドット」の基となる鉱物です。